

2010(平成22)年度

事業報告書

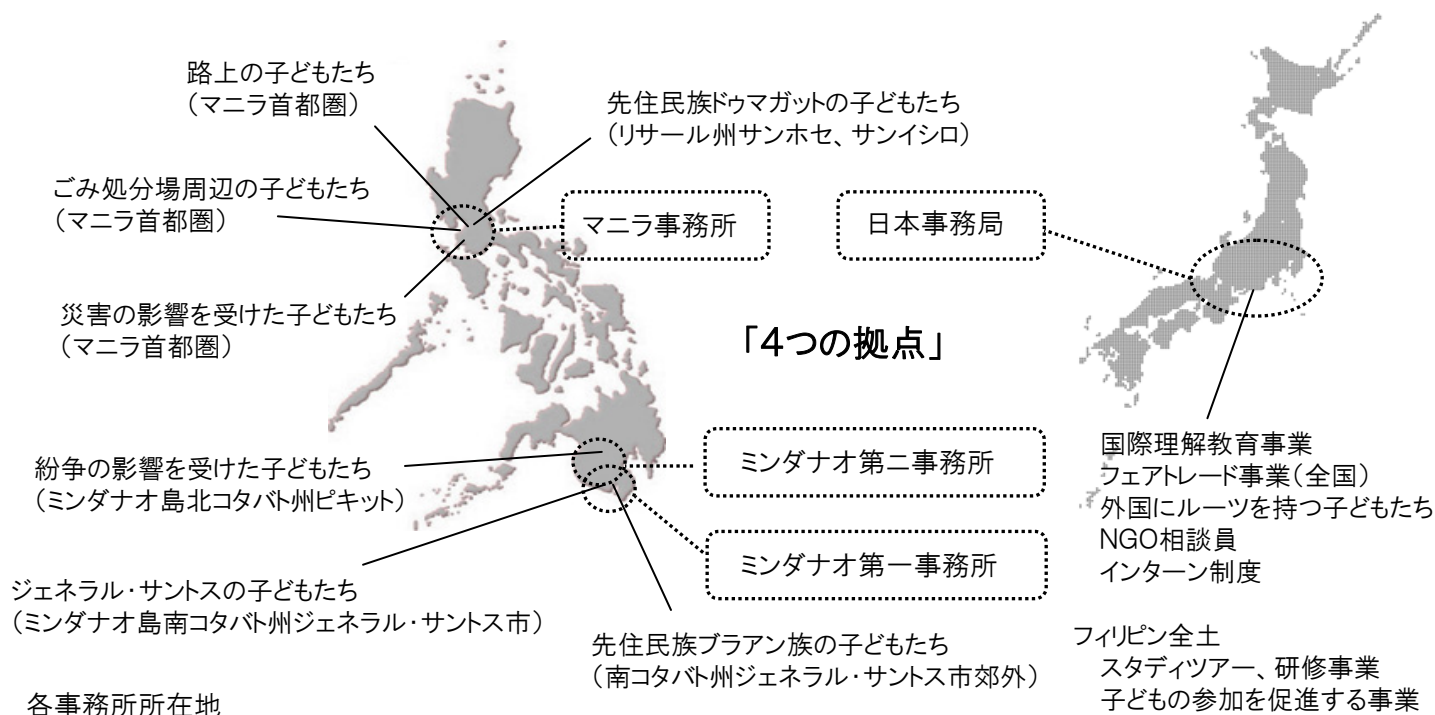
認定NPO法人 アジア日本相互交流センター

---

INTERNATIONAL CHILDREN'S  
ACTION NETWORK

*Not "for" the People, but 'with' the People*

## アイキャン事業地及び担当事務所分布図



### 各事務所所在地

日本事務局: 日本愛知県名古屋市

マニラ事務所: フィリピン共和国マニラ首都圏ケソン市

ミンダナオ第一事務所:

フィリピン共和国ミンダナオ島ジェネラル・サントス市

ミンダナオ第二事務所: フィリピン共和国ミンダナオ島キダパワン市

### アイキャンの行動規範

Not 'for' the People, but 'with' the People  
人々の「ために」ではなく、人々と「ともに」

### 認定NPO法人 アジア日本相互交流センター・ICAN(アイキャン)

設立: 1994年4月1日

郵便番号: 453-0021

住所: 愛知県名古屋市中村区松原町1丁目24番地

地域密着型ビジネス支援施設内N103

(名古屋駅から地下鉄東山線で2駅目にある「本陣駅」

3番出口から徒歩1分になります。)

電話番号 & FAX: 052-908-9314

Eメールアドレス: info@ican.or.jp

ホームページ: <http://www.ican.or.jp>

郵便振替: 00850-6-78233

### 【代表理事】

田口京子 養護学校教諭

### 【理事】

雨森孝悦 日本福祉大学教授、日本NPO学会理事、  
(特活)シャプラニール監事

伊藤洋子 (特活)難民を助ける会

鈴木真帆 会員

高畑 幸 広島国際学院大学現代社会学部教員、  
フィリピン学会所属

高野 翔 会員

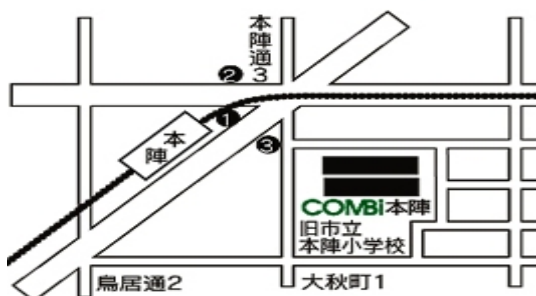
松浦宏二 (特活)チャイルド・ファンド・ジャパン  
リエゾン事務所プログラムオフィサー

宮脇聡史 東京基督教大学准教授、文学博士、  
フィリピン学会所属

### 【監事】

龍田成人 名古屋 NGO センター副理事長、工学博士

林 俊彰 税理士



## メディア掲載

| 日時  |     | 媒体名    | 題名                             | 内容         |
|-----|-----|--------|--------------------------------|------------|
| 1月  | 28日 | 朝日新聞   | 「先住民族に学べ 催し次々～環境破壊 背景に貧困～」     | 国際理解教育     |
| 3月  | 2日  | 日本経済新聞 | 「フェアトレードブームの兆し～名古屋でのCOP10 機に～」 | フェアトレード    |
| 4月  | 20日 | 熊本人財新聞 | 「フィリピンでの活動を紹介」                 | 講演会        |
| 4月  | 26日 | 熊本人財新聞 | 「フィリピンのゴミ山に生きる人々とNGO」          | 講演会        |
| 4月  | 15日 | 中日新聞   | 「日本の絵本 海外の子に～新たにフィリピンへ翻訳」      | 絵を通した交流    |
| 5月  | 11日 | 神奈川新聞  | 「処分場 管理進まぬアジア諸国～不安、でも生活のため～」   | ごみ処分場      |
| 5月  | 15日 | 中日新聞   | 「外国人の親に翻訳支援～名古屋のNPO法人活動～」      | 多文化共生      |
| 5月  | 16日 | NHKテレビ | 地球アゴラ                          | ジェネラル・サントス |
| 5月  | 22日 | 読売新聞   | 「手作り紙芝居比との懸け橋～貧困に苦しむ子どもに寄贈～」   | 絵を通した交流    |
| 5月  | 30日 | 読売新聞   | 「広がるフェアトレード～COP10追い風に～」        | フェアトレード    |
| 6月  | 4日  | 読売新聞   | 「書き損じのはがき下さい～フィリピンの学校建設資金～」    | 書き損じはがき    |
| 6月  | 20日 | 熊本人材新聞 | 「フィリピン・ツアーを募集中」                | スタディツアー    |
| 6月  | 22日 | 中日新聞   | 「貧困にあえぐ子を支援」                   | 活動全般       |
| 7月  | 15日 | 中京テレビ  | ストレイトニュース                      | CSR特集      |
| 7月  | 27日 | 中日新聞   | 「できること広がる輪～アイキャン外務大臣表彰～」       | 外務大臣表彰     |
| 8月  | 1日  | マニラ新聞  | 「比日学生が比で映画製作」                  | 映画製作       |
| 8月  | 2日  | マニラ新聞  | 「笑顔いっぱいのかどもたち」                 | 映画製作       |
| 9月  | 24日 | 中日新聞   | 「フィリピンの子輝く日～浜松南LC現地に学校建設～」     | 学校建設       |
| 9月  | 24日 | 静岡新聞   | 「フィリピンに建設 小学校の完成報告」            | 学校建設       |
| 9月  | 25日 | 中日新聞   | 「フィリピンに校舎できた～中村のNPO法人が建設」      | 学校建設       |
| 10月 | 17日 | 毎日新聞   | 「はがきで比の子ども支援」                  | 書き損じはがき    |
| 11月 | 8日  | 毎日新聞   | 「貧困 地球の温暖化を世界の写真で紹介」           | 写真展示会      |
| 11月 | 10日 | 岐阜新聞   | 「温暖化など身近に」                     | 写真展示会      |
| 11月 | 29日 | 中日新聞   | 「比の子ども支援17年目アジア日本相互交流センター」     | 活動全般       |
| 12月 | 5日  | 毎日新聞   | 「国際結婚した母親から話聞く 名古屋で勉強会」        | 多文化共生      |
| 12月 | 8日  | 読売新聞   | 「フィリピンの教育向上支援 古本、不要CD募る」       | 古本収集       |
| 12月 | 16日 | 毎日新聞   | 「路上生活の子に光」                     | 書き損じはがき    |
| 12月 | 29日 | 朝日新聞   | 「麻薬の恐怖に迫る紙芝居」                  | 絵を通した交流    |

## 参加ネットワーク

| ネットワーク・団体名                                        | 所属・担当 | 詳細                       |
|---------------------------------------------------|-------|--------------------------|
| (特活)国際協力NGOセンター(JANIC)                            | 正会員   | 全国規模のネットワーク型NGO          |
| (特活)名古屋NGOセンター                                    | 正会員   | 中部地域のネットワーク型NGO          |
| 児童労働ネットワーク                                        | 正会員   | 児童労働解消を目的としたネットワーク       |
| 「動く→動かす」                                          | 正会員   | ミレニアム開発目標達成のためのNGOネットワーク |
| CSR推進NGOネットワーク正会員                                 | 正会員   | CSR推進を目的としたNGOネットワーク     |
| 多文化共生リソースセンター東海                                   | 正会員   | 東海地域の多文化共生を促進するネットワーク    |
| 中部ESD拠点協議会                                        | 参加団体  | 中部地域のESDを促進するネットワーク      |
| National Council of Social Development Foundation | 正会員   | フィリピンの社会開発のための組織のネットワーク  |

## 助成事業・委託事業のパートナー

| 団体・機関名                                                        | 事業名・事業内容                                          |
|---------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|
| (独)国際協力機構(JICA)草の根技術協力<br>(2007年11月～2010年10月)                 | パヤタス地区における地域型保健事業および生計向上事業<br>ーごみ処分場閉鎖対策としてー(3年目) |
| 公益信託 今井記念海外協力基金<br>(2008年4月～2011年3月)                          | フィリピンミンダナオにおける共生のための教育事業(3年目)                     |
| 公益信託 愛・地球博開催地地域社会貢献基金<br>(2008年4月～2011年3月)                    | 子どもがつくる新しい地球のカタチ<br>ー持続可能な社会構築のための子どもの参加ー(3年目)    |
| 草の根市民基金ぐらん<br>(2008年4月～2010年3月)                               | フィリピンミンダナオにおける平和構築事業(2年目)                         |
| Panasonic 株式会社<br>(2009年1月～2010年12月)                          | 日本事務局組織強化事業(2年目)                                  |
| (独)郵便貯金・簡易生命保険管理機構<br>ボランティア貯金(2009年4月～2011年3月)               | ミンダナオ島先住民族ブラアン族の教育、及び生計向上事業<br>(2年目)              |
| (独)郵便貯金・簡易生命保険管理機構<br>ボランティア貯金(2009年4月～2011年3月)               | マニラの路上で生活する子どもたちの包括的生活改善事業<br>(2年目)               |
| 郵便事業株式会社<br>(2009年4月～2011年3月)                                 | 市民ボランティアによる外国にルーツを持つ子どもへの教育事業<br>(2年目)            |
| (特活)国際協力NGOセンター(JANIC)<br>及び財団法人庭野平和財団共催<br>(2009年4月～2011年3月) | 日本事務局組織強化事業(2年目)                                  |
| 東海NGO助成金<br>(名古屋NGOセンター及び宗教法人真如苑共催)<br>(2009年4月～2011年3月)      | 東海フェアトレードフォーラムの開催(2年目)                            |
| Souse of the Heads of Missions(SHOM)<br>(在フィリピン各国大使夫人の会)      | パヤタスケアセンター機能強化、及び路上の子どもの活動<br>(2年目)               |
| (特活)アユス仏教国際協力ネットワーク<br>(2009年10月～2010年12月)                    | マニラ災害の緊急支援事業(2年目)                                 |
| 浜松南ライオンズクラブ<br>(2010年1月～2010年9月)                              | 先住民族の村での学校建設活動                                    |
| 積水ハウス株式会社<br>(2010年4月～2011年2月)                                | 日本事務局組織強化事業                                       |
| 外務省<br>(2010年5月～2011年3月)                                      | 外務省NGO相談員                                         |
| 外務省<br>(2010年6月～2011年3月)                                      | 外務省NGOインターンプログラム                                  |
| 中部電力株式会社<br>(2010年6月～2011年3月)                                 | 国際理解教育の普及事業                                       |
| 浜松南ライオンズクラブ<br>(2010年9月～2011年2月)                              | 先住民族の村での水道整備事業                                    |
| 中部電力株式会社<br>(2010年11月～2011年3月)                                | 絵手紙を使った交流及びフェアトレードの促進事業                           |

## I、危機的状況にある子どもたちと「ともに」おこなうプログラム



### 1、ジェネラル・サントスの子どもたち

#### (1) 事業概要

ミンダナオ島の南部に位置するジェネラル・サントス市は、人口53万人、世帯数11万の地方都市です。ツナやパイナップル、ココナッツなどの魚産物・農産物が豊かに収穫できますが、大農場や工場を持つ一握りの資本家への富の集中が顕著で、多くの人びとが最低限の生活状況のなかにいます。アイキャンは、同市に住む経済的に困難な家庭環境の子どもたちに学用品や通学経費等の提供と相互理解促進活動を実施しました。

#### (2) 実施事務所

ミンダナオ第一事務所

#### (3) 実績

##### 1) 学用品や通学経費等の提供

1月から3月末までは74名(小学生22名、高校生49名、大学生3名)、4月の卒業式以降12月までは54名(小学生1名、高校生50名、大学生3名)の子どもたちの通学を可能にしました。制服、学用品、かばん、靴などを支給し、学費、通学交通費、教材費、卒業経費を提供することにより、子どもたちの学校の勉学に最低限必要なものを整え、安心して勉強に取り組める環境を作りました。3月、4月には小学生21名、高校生18名、大学生1名が卒業の日を迎えることができました。

##### 2) 緊急対応

6月に胃潰瘍を患った1名と、9月にデング熱に罹った1名の奨学生に対して、入院と手術にかかる諸費用を提供しました。

##### 3) モニタリング

スタッフが年間を通して、家庭・学校訪問を行い、子どもの成績や学習態度について、保護者や担任の教師と密に連絡をとりながらモニタリングを行いました。また事務所においても、学校や家庭の問題について、奨学生や保護者の相談を受けました。6月に「子ども集会」を開催し、奨学生や保護者と事業目的、方法について確認しました。また卒業生や表彰された子どもたちをともに祝いました。

##### 4) 成長記録の発送と手紙やカードでの交流

6月と12月に、奨学生の成長記録と手作りカードを日本のパートナーさんに郵送しました。また日本のパートナーさんからの郵便13通を子どもたちに届けました。

##### 5) 相互理解促進活動

6月に全奨学生を対象に「異民族研修」を実施した上、奨学生15名による5つの異民族(マギンダナオ、ブラアン、バジャオ、ティボリ、マラナオ)との「交流の旅」を実施しました。更にその体験を「平和漫画教材」という形にまとめ、異民族に対する理解を広める活動を実施しました。

##### 6) 子どもたちの絵本の読み聞かせや炊き出し活動

奨学生たち自身が自分たちで集まり、近所の子どもたちへの絵本の読み聞かせや炊出し活動を3回実施しました。

#### (4) 特記事項

子どもたちによる「平和漫画教材」が無事完成しました。

#### (5) 2011年の展望

2010年に制作した「平和漫画教材」を、ジェネラル・サントス市内全ての小学校に届け、異民族間での相互理解の促進を市内全域で行います。





活動金額 274,289円

## 2、紛争の影響を受けた子どもたち

### (1) 事業概要

ミンダナオ島北コタバト州ピキットの住民は、長年続いてきた武力紛争により、避難生活を繰り返してきました。アイキャンは、ピキット町南部に流れるプランギ川の周辺7集落(R7)で、2006年より小学校校舎の修復や新築を通じた教育活動と、地域の平和活動を促進してきました。今期は、学用品の提供や小規模の平和活動をおこなうとともに、関係諸機関と調整しながらニーズのある新たな活動地の確定、来期の活動拡大へ向けての準備を行いました。

### (2) 実施事務所

ミンダナオ第2事務所(キダパワン市)とマニラ事務所

### (3) 実績

#### 1) 学用品の提供

3月、ピキット南部のプランギ川沿いの7つの集落(R7)の小学校で実施された一斉学力テストに合わせて、生徒たち518人に文具の提供をしました。

#### 2) 平和活動

10月に子ども議会参加者2名が、「平和への想い」を、約60人の地域の大人たちに訴えました。

#### 3) モニタリング

今までに建築した校舎や実施してきた平和活動の効果を確認するとともに、治安情報の収集にあたりました。

#### 4) ニーズ調査と3ヶ年計画の作成

2006年からの5年間の計画が終了し、2011年から始まる3年計画を作成するために、ピキット町町長や教育長、学校、地域とともに、ピキット町における平和活動

と教育環境整備についてのニーズ調査を行いました。その結果、市内の21%の人口を占め、98%がマギンダナオ族(イスラム教徒)で構成される北東部のマリダガオ川流域の7つの集落(M7)では、治安情勢も不安定なため、NGOの介入がほとんどなく、教育施設はほとんど整備されていないことが分かりました。そこで、調査の焦点をこの地域に絞り、3ヶ年計画を策定しました。またその計画を実施するために、日本大使館との打ち合わせを開始するとともに、紛争地での平和構築や学校建築の経験のあるフィリピン人スタッフを増員すべく、募集を開始しました。

### (4) 特記事項

これまで2006年から活動を進めてきたピキット南部のプランギ川周辺集落(R7)での活動から、同じピキット町の北東部(M7)へも活動を広げることが決まり、より大きなインパクトで事業が実施できるよう基盤強化を行いました。

### (5) 2011年の展望

ピキット町の北東部(M7)において、多くの子どもたちの教育と平和が促進される3ヶ年計画での1年目となります。2011年は同地域のスルタン・メモリアル中学校の建築を行い、約500名の子どもの教育環境を向上するとともに、地域の平和活動を行います。

また、国際機関との連携の観点から、これまで事務所を構えていたキダパワン市から、関係各機関が集中しているコタバト市に活動拠点を移動するとともに、スタッフの増員や事務所機能の向上、通信機器の整備とセキュリティの強化により、実施体制を強化します。





活動金額 12,707,805円

### 3、路上の子どもたち

#### (1) 事業概要

フィリピンでは、約25万人の子どもたちが様々な理由で路上での生活を余儀なくされています。子どもたちは物乞いや、物売り、廃品回収業、性産業等により生計を立て、様々な危険のなか暮しています。空腹を紛らわせるためにシンナーを吸引し、身を守るためにギャングの一員となる場合もあります。アイキャンは、路上の子どもたちが多いマニラ首都圏の6ヶ所(ケソン市フィルコア、アグハム通り、ミンダナオ通り、ムニョス、ホリースピリッツとマニラ市ブルメントリット)にて教育と養育の活動を実施しました。

#### (2) 実施事務所

マニラ事務所(一部フィリピンのNGO「サンマルティンデポーレスの家と宝」と提携)

#### (3) 実績

##### 1) 路上教育活動

路上の子どもたち約200名と路上教育を実施しました。1月から3月は月に4回、4月から12月は月に2回の計30回を各6事業地において実施、子どもの権利、道徳、人生設計などをテーマに学びました。

##### 2) 保健教育・医療活動

路上の子どもたち約200名と保健教育・医療活動を15回行いました。保健教育では、病気・ケガの予防の知識・方法、シンナーの危険性、性教育等を学び、医療活動では、医師・歯科医による健診を行いました。

##### 3) 炊き出し

路上教育活動等に参加した子どもたち約200名に、

栄養改善を目的とした炊き出しを45回実施しました。

#### 4) 路上の青年リーダー(JUST WORKER)の育成

6事業地の路上の子どもたち約200名の中から選ばれた30名の路上の子どもたちリーダーが、月に1回リーダーミーティングを、2月と10月には合宿を行いました。

#### 5) 職業訓練

生計向上を目指し、マニラ市の青年のTシャツ印刷技術訓練(約15名参加)を33回、ケソン市の青年のパン作り訓練(約15名参加)を18回実施しました。

#### 6) 学校経費の提供

「子どもの家」に暮らす元路上にいた高校生4人に対し学校諸費や養育にかかる費用を提供しました。

#### 7) 5ヶ年計画の作成

フィリピンと世界各国の路上の子どもたちのアプローチの調査を経て、5ヶ年計画を作成しました。

#### (4) 特記事項

2010年は、路上の青年リーダーを中心とした子どもたちをグループとして組織化を進め、自主性を尊重した活動を目指しました。

#### (5) 2011年の展望

5ヶ年計画1年目として、2010年に組織化された子どもたちのグループを中心に、路上の子どもたちの「育つ権利」「参加する権利」「生きる権利」「守られる権利」がより尊重される環境を整えていきます。さらに、地方政府を巻き込み、地域の子どもの守る制度の強化を行うことで、周辺住民の路上の子どもたちへの理解の促進を促し、より広く持続可能な活動を目指します。





#### 4、先住民族ドゥマガットの子どもたち

##### (1) 事業概要

リサール州アンティポロ市にあるサンイシロ村には、先住民族(ドゥマガット)の血をひく人々が多く住んでいます。人々は主に焼畑や稲作などの農業で生計をたてていますが、収穫は十分でなく、雨季になると地理的に孤立してしまうなど、厳しい環境に置かれてきました。子どもたちも、経済的、地理的、社会的な理由で、高校卒業まで通学できないケースも少なくないため、アイキャンは子どもたちに通学経費の提供等を行うとともに、住民の収入向上の活動を行ってきました。近年、これまでの活動の成果が見えるようになり、また、地方政府が先住民族の地位向上に取り組み始めたこともあり、地域の状況は改善に向かいつつあります。そこで、住民組織と会議を行い、最後の奨学生の卒業(2011年4月)を機に、活動を終了することにいたしました。

##### (2) 実施事務所

マニラ事務所

##### (3) 実績

###### 1) 通学経費と学用品の提供

高校生2名の学校諸費を提供し、うち1名が3月に高校を卒業しました。6月には高校最終学年である4年生になった奨学生1名に、学用品を提供しました。

###### 2) 住民組織の子どもたち・青年たちの研修

9月に住民組織マサカのメンバーの子どもたち8名に先住民族の権利について学ぶ研修を実施しました。これにより、子どもたちは、自分たちの民族をポジティブに捉え直すことができ、将来の可能性が広がりました。

##### 2) 菜園活動

子どもたち自身が地域の改善のためにできることとして決めた菜園作りを7月に実施しました。奨学生を含む青年たち10名が、リビス地区で菜園をつくり、その後の収穫につなげました。

##### 3) 家庭訪問やモニタリング

子どもや住民組織マサカメンバーとの会議を、学校や低地の役所にて行い、地域や子どもの様子について把握するよう努めました。また、ソーシャルワーカーが家庭訪問を実施し、子どもや親との懇談を随時行いました。

##### (4) 特記事項

もと奨学生が市政府に雇用され、山奥の先住民族地域のデイケア(保育所)教師として派遣されました。また、長年パートナーを組んできた住民組織の代表も市の先住民族の担当者として雇用されています。アイキャンが過去約10年間行ってきた子どもの教育や住民組織の強化等の活動の成果が、行政とのネットワークを拡大する中で、地域に広がりました。

##### (5) 2011年の展望

1999年に開始となった本事業ですが、2011年ついに最終年となります。あと1名残った奨学生の通学経費や学用品の提供を継続するとともに、4月の卒業の経費を提供し、卒業を見守ります。事業としては、これで終了となりますが、子どもたちのモニタリングを継続する他、これまでに築かれた地域の人々とのネットワークを生かし、よき仲間として、良好な関係を続けていきたいと考えています。





活動金額 10, 116, 031円

## 5、先住民族ブラアンの子どもたち

### (1) 事業概要

ミンダナオ島に住むブラアンは、独自の文化・慣習を持ち、主に畑作や炭焼きなどを生業として、山岳地帯に住んでいる先住民族です。1970年代以降、深刻化してきた不法伐採や入植者による土地収奪により生活が脅かされ、農耕や採取を基盤とした自給自足の生活が成り立たなくなってきました。徒歩1～2時間の山道通学を強いられる多くの子どもたちは、空腹や不十分な教育環境のために通学意欲を失い、卒業することが困難です。このような状況に対し、アイキャンは6つの小学校において学校給食をはじめとする下記活動を実施しました。

### (2) 実施事務所

ジェネラル・サントス事務所

### (3) 実績

#### 1) 学校給食の提供

サンホセ小学校、ブラガン小学校、アspan小学校、ダタールサルバン小学校、バゴンシラン小学校、ダアンバンワン小学校の子ども約900名に対して、101回の給食を提供しました。これは7万食以上に相当します。

#### 2) 小学校での家畜飼育

6校においてヤギや水牛や鶏等、各環境に適した家畜を飼育し、貸売による収益で給食活動を実施しました。ヤギは新たに19匹生まれ、10匹を販売しました。

#### 3) 小学校での学校菜園

6校においてトウモロコシ、芋類、豆類等の野菜を栽培しました。水牛を飼育した学校では、水牛を使用し、

学校菜園を拡張できました。

### 4) 教育環境向上活動

6校に学用品の提供と学校の補修を行い、子どもたちの学校環境を改善するとともに、マリガヤ村に1棟2教室の新校舎を建設し、就学数を140%向上させました。

### 5) 環境教育活動

小学校教師を対象に環境教育を行い、教師の環境保全意識を向上させただけでなく、教育省との連携により環境教育を授業に取り入れることができました。更にその一環として1,000本以上の木を子どもたちと一緒に植えました。

### 6) 母親達による生計向上活動

組織された生計向上活動グループに対して更なる技術研修や販売研修を実施しました。それにより、母親たちは伝統工芸品やハーブ薬草など山の恵みを活用した商品を町のイベントで2回販売し、収入を増やしました。

### 7) 子どもの権利研修

昨年に引き続き、50名の保護者を対象に子どもの権利研修を5回実施し、その意識向上を図りました。

### 8) 3ヶ年計画の作成

子どもたちの環境を改善するための、子ども、教師、地域の3点の強化を目指す3ヶ年計画を作成しました。

### (4) 特記事項

新しく校舎が建設され、就学者数が増えました。

### (5) 2011年の展望

3ヶ年計画の1年目として、複数の校舎建設と子どもたちを取りまく教育や保健環境の向上を行います。



活動金額 12, 436, 662円

## 6、ごみ処分場周辺に住む子どもたち

### (1) 事業概要

マニラ首都圏ケソン市郊外にあるパヤタス地区には、フィリピン最大のごみ処分場があります。約3, 000名がこの処分場の資源を回収し販売することで生計をたてていますが、その収入は限られており、必要最低限の暮らしを保つのが困難です。また、劣悪な生活環境によって、住民は様々な健康被害に直面しています。このような背景から、アイキャンは地域の住民たちとともに、4月まで医療と生計向上の事業を実施し、4月以降は、事業で生まれた住民による協同組合(PICO)が活動を継続しています。

### (2) 実施事務所

マニラ事務所

### (3) 実績

#### 1) 保健・医療活動

一医師による定期診療: 週2回通年で101回実施し、患者数は延べ3, 057名でした。

一助産師による妊産婦検診: 月2回新生児への予防接種も含め、19回実施し、延べ207名が受診しました。

一地区巡回診療(アウトリーチ): 月1回医療チームが地区を巡回し、新生児や妊婦の検診と予防接種、ビタミン剤投与等を行いました。

一結核対策DOTS: PICOスタッフがDOTSパートナーとして服薬をモニターしました。

一外部診療補助: 外部医療機関での治療を必要とする患者に、交通費や検査費等を4月まで提供しました。

一PICO医療スタッフ医療費補助: PICOの医療スタッフ

の治療費補助を4月まで実施しました。

一PICO医療スタッフ研修: 5回実施、延べ129名参加。

一特別医療活動: 虫下しを4回、110名に実施しました。

一保健教育: 患者36回延べ581名、青少年8回延べ204名、母親9回延べ196名の参加がありました。

一預かり保育教育・栄養改善活動: 週5日12~30名の幼児を対象に預かり保育を実施しました。低体重や小児結核の子どもへの栄養改善は10月まで行いました。

#### 2) 協同組合・薬局設立運営

組合定例会議や役員会議を毎月、保健や会計担当の会議を随時行いました。組合員数は305名となりました。

#### 3) 生計向上事業

一アイキャン主催職業技術訓練: エコバックの作成訓練を6回実施し、延べ54名が参加しました。

一外部職業技術訓練への参加補助: 63名が美容、自動車修理、コンピュータ修理等のコースを修了しました。

一就職活動補助・起業補助: 職業訓練コース終了後、就職活動の補助を行い、約60%が新たな収入源を獲得できました。また6名の組合員が初期投資貸付を受けて小規模ビジネスを始めることができました。

一青少年活動: 毎週土曜約30~45名が参加。

### (3) 特記事項

4月から当事業地での主な活動は、PICOに運営主体が移行し、診療活動や薬局運営が継続しています。

### (4) 2011年の展望

PICOの健全な運営強化し、地域の青年をヘルスアドボケイターとして育成していきます。





## 7、災害の影響を受けた子どもたち

### (1) 事業概要

2009年9月26日(土)、大型台風16号がフィリピンに上陸し、その後の17号、18号と合わせ、マニラ首都圏とその周辺地域に大洪水を引き起こし、フィリピン全土で490万人もの被災者を出しました。当団体は災害直後からその被災者に対して緊急物資の提供を行ってきましたが、2010年に入っても被災者たちの生活状況は厳しく、子どもに通学を諦めさせようとする家族も少なくありませんでした。また、住宅を失った被災者たちの一部は、国から土地提供を受け、マニラ郊外アンティポロ市の再定住地域に新居を得ましたが、新しい地での生活も困難を極めていました。そのような中、新たな災害が、災害大国とも言われるフィリピンを襲いました。このような状況にアイキャンは、学用品や古着の提供を行うとともに、再定住地での復興に関わる活動を行いました。

### (2) 実施事務所

マニラ事務所

### (3) 実績

#### 1) 緊急対応

ー7月に台風オンドイの被害者であるムニョス地区の小中学生、高校生30名へ学用品を提供しました。

ー8月に発生したマニラ首都圏ナボタス市の火災被害者へ、パートナーNGOと連携して古着を提供しました。

ー9月にルソン島北部を襲った台風の被害者に対して、パートナーNGOと連携して、11月に古着の提供を行いました。

#### 2) 復興活動

9月から12月にかけて、アンティポロ市の被災者用再定住地域において保健・医療、生計向上、教育の3つの分野で活動を行いました。

ー保健・医療活動：再定住地域の延べ人数120名に10回の保健研修を行い、予防について知識を付け、緊急処置ができるヘルスリーダーを育成しました。また、住民の健康状態を把握するための記録帳を78名に導入し、診療活動も1回実施しました。

ー生計向上活動：住民が技術を得、所得向上に繋がるように、18名(延べ人数216名)に12回の編み物の技術研修を実施しました。

ー教育活動：未就学年齢の子どもたち70名が学ぶことができるデイケセンターを建築するとともに、教材の整備を行いました。

#### (4) 特記事項

9月から人員体制を強化したことで、被災者の再定住地での活動が一気に進みました。また、アンティポロ市や州の教育局や社会福祉局、他NGO、地域の協同組合等のネットワークを構築し、頻繁に会議を持ちました。これによって、重複のないスムーズな活動が可能となりました。

#### (5) 2011年への展望

アンティポロの再定住地では、2010年度に実施した活動の効果が持続するように、フォローアップを行います。同時に、フィリピン各地で発生する災害に迅速に対応できるよう、日本とフィリピン共通の緊急始動マニュアルを制定し、基盤の強化を行います。





活動金額 875,797円

## 8、外国にルーツを持つ子どもたち

### (1) 事業概要

アイキャンの日本事務局がある東海地域には多くの外国人が暮らしています。彼ら・彼女らは自国での失業率の高さ等が理由で、働く機会を求めて移住してきた人たちです。その子どもたちは、教育を受ける権利があります。しかし、言葉の壁や経済状況により、教育を受けにくい状況に置かれている子どもたちが増加しています。子どもの教育に主体的に関わる機会が奪われている親も多く存在します。アイキャンは昨年に引き続き、このような状況を改善するために、学校・保育園や役所から配布されるお知らせを翻訳する活動を実施しました。

### (2) 実施事務所

日本事務局

### (3) 実績

#### 1) 無料翻訳サービス

今年度は108名のボランティア(内12人が外国人)により、152件の翻訳作業を行いました。

ー外国人個人からの依頼:PTA関連、学校関連行事、運動会のお知らせ等

ー自治体からの依頼:保育料査定、子ども手当に関する通知、ワクチン無料化のお知らせ等

ー学校・保育園・幼稚園からの依頼:運動会・遠足・修学旅行のお知らせ、災害時の対応について、健康診断結果、学年便り、通知表等

#### 2) 翻訳言語の多言語化

昨年度は英語1言語のみの対応でしたが、今年度は

英語の他、インドネシア語、中国語、タガログ語、ベトナム語、スペイン語、と多言語展開しました。愛知県国際交流協会のホームページでのバナー掲載や地域の国際交流関連施設にチラシを設置し、広報活動を行いました。

### 3) 勉強会の開催

ー「地域のフィリピンコミュニティを知ろう！名古屋×フィリピン＝どんな暮らし？」(9月11日)

日本で暮らすフィリピン人とそのコミュニティを知り、多文化共生についての理解を深める勉強会を行いました。(翻訳ボランティア11名、他3名の計14名が参加)

ー「多文化共生 for 外国にルーツを持つ子どもたち お母さん、教えて！」(12月4日)

外国にルーツをもつ子どもの母親3名に直接話を聞き、外国にルーツを持つ子どもに関するワークショップを行いました。(翻訳ボランティア7名、他2名、計9名が参加)

### (4) 特記事項

地域のニーズに基づき、多言語化を展開することができました。また、勉強会を開催し、翻訳ボランティアのみなさんに多文化共生社会の構築について、ともに考え行動する機会をつくることができました。

### (5) 2011年の展望

ボランティアによる持続的な運営システムを構築していきます。また、より多くの外国にルーツをもつ子どもたちと、その家族に翻訳サービスを利用してもらえよう、広報を継続していきます。そして、引き続き勉強会を開催し、活動に関わる人たちの意識向上につなげていきます。



## 9、子どもの参加を促進する事業

### (1) 事業概要

「危機的状況にある子どもたち」は「受益者」や「援助の対象」ではなく、子どもたちの視点から見た地域の課題を、子どもたち自身の力で解決していくことのできる存在です。各地域において、子どもたちが「こえ」をあげ、「できること」を実践するとともに、各地の「危機的状況にある子どもたち」が一同にマニラに集まる「子ども議会‘10」を開催しました。

### (2) 実施事務所

マニラ事務所、ミンダナオ第一、第二両事務所

### (3) 実績

#### 1) 地域子ども活動

「子ども議会‘09」で話し合った計画をもとに、それぞれの地域の子どもたち自身が「僕たち・私たちにできること」を実現させました。

—ジェネラル・サントスの子どもたち(4月～6月)

子ども議会に参加した奨学生が、他の奨学生たちとともに、小さな子どもたち約40～50人を対象に、3回に渡って読み聞かせと炊き出しを行いました。

—紛争の影響を受けた子どもたち(10月)

以前子ども議会に参加した2名の子どもが、バラングイの集会で、役員や警官など村の大人たち約60人を前に、子どもたちにとっての平和の大切さを訴えました。

—路上の子どもたち(6月)

以前は路上にいたアイキャンの奨学生たち3人が、路上教育の活動に参加し、自分たちの経験を共有しました。

—先住民族ブラアンの子どもたち(7月、8月)

ブラアンの子どもたちが、炊き出しの活動を3回実施し、40～70名の子どもたちが参加しました。

—山村サンイシロに住むドウマガットの子どもたち(7月)

奨学生を含む10名の子どもたちが、リビス地区で菜園を作り、その後収穫を行いました。

—パヤタスごみ処分場周辺の子どもたち(通年)

毎週土曜日、8人の子どもが、地域のより小さな子どもたち20～30人に補習授業を行いました。

—身体的障がいを持つ子どもたち・日比国際児(10月)  
身体的障がいを持つ子ども4人と日比国際児1人が、パヤタスごみ処分場の子どもたち18人と、お互いの経験について分かち合う機会を持ちました。

#### (2) 「子ども議会‘10」の開催(10月)

ジェネラル・サントスの子ども3名、紛争地の子ども3名、路上の子ども9名、ブラアン族の子ども3名、ドウマガット族の子ども3名、ごみ処分場の子ども4名、身体的障がいを持つ子たち3名、日比国際児2名計30名が参加して、子ども議会を開催しました。これまで各地域で自分たちが取り組んだことを発表し、次年度の計画をたてました。

#### (4) 特記事項

今期の子ども議会では、前年の議会参加者がリーダーとして、ファシリテーションの一部を務めました。

#### (5) 2011年の展望

2010年に「子ども議会」の3年目を終えた為、2011年は一度過去3年間の評価を行い、今度の方向性についてまとめる予定です。



## Ⅱ、「できること」を増やすプログラム



### 1、国際理解教育事業

#### (1) 事業概要

地球的規模で情報が瞬時に伝わる現代においても、「危機的状況に置かれている子どもたち」の「こえ」が社会に伝わる機会は依然として限られています。アイキャンでは、「可哀そう」な子どもたちの状況を伝えるのではなく、事業の中で出会った危機的状況にある子どもたちの「こどものこえ」から、子どもたちの夢と課題を日本の多くの人たちと共有し、「ともに」その夢の現実を目指す人材を育成しました。

#### (2) 実施事務所

日本事務局、マニラ事務所

#### (3) 実績

##### 1) 学校での授業 15件

中京大学、常滑市立青海中学校、椙山女学園大学附属小学校、名古屋市立大学アイセック、滝中学校、こことまなびどっとこむ、多治見市立小泉中学校、金城学院中学校、愛知県立南陽高校、名古屋学院大学（以下、中部電力グループECOポイント活動として）常滑市立青海中学校、養老町立高田中学校、養老町立東部中学校、津島市立西小学校、瀬戸市立效範小学校

##### 2) イベントなどでのワークショップ等 11件

生物多様性の保全におけるNGOの果たすべき役割、守山カフェ、セントラルメンテナンス、くれよんBOX、HAPPYPUNCH～世界とつながる笑顔の架け橋～、フェアトレードデイ、神の子たち上映会、想念寺、岐阜県養老人権講演、NGOスタッフになりたい人のためのコミュニティ・カレッジ説明会、ちゅうでんなちゆるるすくーる

##### 3) 事務所訪問受け入れ 4件

四日市市立港中学校、犬山市立犬山中学校、名古屋聾学校、金城学院中学校

##### 4) 自主企画

マニラスタッフ森崎帰国報告会、危機的状況に置かれた子どもの全国キャラバン（北海道、山形、東京、愛知、大阪2回、広島2回、熊本2回）、ミンダナオ報告会、児童労働勉強会

##### 5) 海外研修の受入れ

青山学院大学、FASID「国際開発入門コース」海外研修、Nたま研修参加者、JICE交流プログラム、JENESYS/JICE映像制作派遣団、1日事業地体験

##### 6) 絵手紙を通じた日本とフィリピンの交流

TULAY PROJECT事業の一環として愛知県の中学生34グループ、マニラ日本人学校2グループとフィリピンの子どもたち52名が、また、中部電力株式会社の社員とその家族、フィリピンの子どもたちが、「環境への取り組み」をテーマとした絵手紙による交流を行いました。

#### (4) 特記事項

地元の企業と協働パートナーとしてのつながりを持つことができ、「地域の子どもを、地域の企業・NGOがともに、地域で育てる」新たなシステム作りの第一歩となりました。

#### (5) 2011年への展望

企業・学校との連携を強化し、様々な国際理解教育の形を積極的に提案するとともに、前年度からの引き続きの課題である、当事業の収支バランスを保っていきます。



活動金額 651,941円

## 2、スタディツアー：研修事業

### (1) 事業概要

世界的規模の課題が拡大していく中、その解決に向けて、より多くの人々のコミットメントが求められています。そのため、アイキャンでは、危機的状況にある子どもたちの「こどものこえ」に耳を傾け、子どもたちと夢と課題を共有できる人材の育成と、参加型の地域開発事業の普及・発展を目指して、フィリピンの事業地にて、スタディツアー・研修を行いました。

### (2) 実施体制

日本事務局、マニラ事務所が事業実施、運営。

### (3) 実績

#### 1) 概要

実施時期と回数：3月、8月、9月に計5回

基本的内容：

- 1日目：集合、オリエンテーション等
- 2日目：路上の子どもたちとの交流
- 3日目：ごみ処分場の子どもたちとの交流
- 4日目：子どもたちとの遠足、買い物等
- 5日目：解散

#### 2) 詳細

##### 一春プランA

実施期間：2010年3月18日から3月22日（4泊5日）

参加者：3名

##### 一春プランB

実施期間：2010年3月25日から3月29日（4泊5日）

参加者：4名

##### 一夏プランA

実施期間：2010年8月5日から8月9日（4泊5日）

参加者：8名

##### 一夏プランB

実施期間：2010年8月19日から8月23日（4泊5日）

参加者：12名

##### 一夏プランC

実施期間：2010年9月2日から9月6日（4泊5日）

参加者：12名

### 3) 帰国報告会の開催（10月）

ツアー参加者が中心となり、帰国後名古屋で、帰国報告会を開催しました。参加者は「できること」の一環として、報告会参加者にフィリピンの現状や、ツアーで体験したことを伝えました。

### (4) 特記事項

今期も引き続き、参加者が参加しやすく、開発事業にも負担の少ない4泊5日のスケジュールでツアーを行いました。決算や各種報告書が重なる春のプランに関しては、募集や実施をする上で困難がありましたが、次年度からは決算期が変更となる為、課題が解決されます。一方、夏のプランに関しては、例年通りキャンセル待ちとなりました。ツアーに日本のボランティアが参加してくれたことにより、日本の活動とフィリピンの活動の連携を強めることができました。

### (5) 2011年への展望

次年度は、ツアー実施の体制が強化されるので、より多くのツアーを実施するとともに、募集や実施に関わる団体内部での分業をはかっていきます。





### 3、フェアトレード販売事業

#### (1) 事業概要

「お買い物」を通じて社会を変える重要な手段として、フェアトレードの販売を行いました。具体的には、生産・購入過程における1)生産者のエンパワメント、2)生産者の収入向上、そして販売過程において3)社会問題に対するメッセージ性と4)収益性、5)「できること(ICAN)」の実践としての場の提供を目指しました。

#### (2) 実施体制

日本事務局、マニラ事務所

#### (3) 実績

アイキャンの開発事業の中から生まれた生産者団体SPNPやPICOのみならず、他のグループから製品の仕入れを行い、日本とフィリピンでイベントや学園祭、事務所、ホームページ、店舗を通じて販売しました。その結果、多くの方々に社会問題の深刻さや公正な貿易の必要性、そしてアイキャンの理念や活動を知って頂く機会を提供できました。

##### 1) 委託店

##### ー継続15店舗

オゾン、ぎたんじやり、チャパカ、ドリーム、名古屋YMCA、くれよんBOX、バオバブ、kogomi、ワールドジャンクション、まなかまな、風"s、睦和(むーあ:ネットショップ)、JICA地球ひろば、KERA TO HOME、フェアビーンズ、ティバアエコビレッジ

##### ー新規9店舗

ネイチャーガーデン、窯のひろば、ぐらする一つ、スマイルタウン、家族亭、Café Marronnier、マジックマーマ、よ

しやま、土川商店

#### 2) イベント等の販売(委託含む)

想念寺、池田山麓クラフト展、連合メーデー、萬福院、いのちはめぐる、名大祭、茨城県立古河第一高等学校、青山学院大学、昭島市産業まつり、グローバルフェスタ、大阪市立大学、AHIオープンハウス、日本大学、いきものEXPO、生物多様性交流フェア、学泉大学、JICAまつり、ワールドコラボフェスタ、関市立関商工高校、広島大学、北星学園大学、京都大学、亀山市Combi本陣文化祭、サッポロファクトリー、南山大学、日本福祉大学、多文化交流フェスティバルみのかも、亀山市、学泉大学、犬山中学校、きふね幼稚園、名古屋市立大学、永平寺名古屋別院、箕面市多民族フェスタ、Kiraはじとびマーケット

#### 3) 新商品の開発

##### ー企業との連携

SPP株式会社やMODECO等の企業と連携してリサイクルバックや絶滅危惧種のぬいぐるみ等を開発しました。

##### ーフェアトレード生産者団体との連携

フェアトレード生産者団体と連携し、あみぐるみ、和柄のくまなどの新商品を開発しました。

#### (4) 特記事項

委託店が新しく9店舗増加すると同時に、関西でのイベント出展数を増やすことができました。生産面では、生産者団体や企業と協働して、新商品の開発に力を注ぎました。

#### (5) 2011年への展望

過去の評価を行い、本事業の中期計画を作成します。



#### 4、フェアトレード啓発事業

##### (1) 事業概要

「お買い物」を通じて、平和な社会の構築を目指すフェアトレード(公正な貿易)運動の広がり、東海地域において依然として限られています。その為、市民は「お買い物」によって「できること」に参加できていないのみならず、「南」の生産者の生活の向上にも限界があります。そこで、地域のフェアトレード関係者や有志が一丸となって、東海地域のフェアトレードを取り巻く環境を変えていくことができるよう、東海フェアトレードフォーラムを開催しました。

##### (2) 実施事務局

日本事務局

##### (3) 実績

###### 1) 「東海フェアトレードフォーラム」の開催(2月)

東海地域のフェアトレード関係者(NGO、企業、ショップ、学生等)とフェアトレードに関心を持つ市民60名が一堂に集まる「東海フェアトレードフォーラム」を開催しました。拓殖大学国際学部教授長坂寿久氏と国際理解教育センターNIED代表伊沢令子氏を招待し、東海地域のフェアトレード関係者が一丸となって取り組めるアクションプランを作りました。

###### 2) 「東海フェアトレードポータルサイト」作成(2月)

東海地域のフェアトレードポータルサイトを作成し、東海地域のフェアトレードショップをデータベース化しました。これによって、フェアトレードショップを訪れたいと思った人が、すぐに近くのお店を探すことができるようになりました。

URL : <http://www.ican.or.jp/tff.html>

###### 3) 「東海フェアトレードマップ」の作成(10月)

ミニストップ株式会社やにんじん CLUB、マジックマーマ、株式会社田原飲料等から協賛をいただき、アイキャンと南山短期大学の学生達が協働して「東海フェアトレードマップ」を2万枚作成しました。マップにはフェアトレードショップ94団体を掲載し、フェアトレードに関心のある人たちに、地域のフェアトレードショップへ足を運んでもらえるきっかけを作ることができました。

##### (4) 特記事項

「東海フェアトレードフォーラム」では、参加者が「東海フェアトレードを活性化するための7か条」を完成させ、今後のフェアトレード活性化に向けて関係者の機運を高めることができました。

また、企業・団体から寄付金をいただきポータルサイトやマップを作成するなど、独立採算で活動が行える一歩を踏み出すことができました。

##### (5) 2011年への展望

次年度も「東海フェアトレードフォーラム」を開催し、東海地域でのフェアトレード活性化に向けて、この地域のフェアトレード関係者と市民の更なる組織化、連携促進を促します。また、東海フェアトレードポータルサイトを強化し、広告収入で、地域のフェアトレード情報を随時提供できるシステムを構築します。

また、今後3年計画を策定し、東海フェアトレードフォーラムの方向性を確定させます。





## 5、外務省NGO相談員（外務省委託事業）

### （1）事業概要

日本のNGOの組織強化や専門性の向上を通して、日本のNGOの事業実施能力を高めるとともに、事業実施面における政府とNGOの連携を促進することを目的として、アイキャンは本年度、北陸・東海の10県を担当する「NGO相談員」を（特活）名古屋NGOセンターとともに務めました。

### （2）実施事務所

日本事務局

### （3）実績

#### 1）相談業務 計951件

5月31件、6月110件、7月126件、8月126件、9月102件、10月184件、11月144件、12月128件

#### 2）出張業務 計14件

7月協働フォーラム（愛知）、10月グローバルフェスタ（東京）、JICA協力隊説明会（静岡、石川、富山）、ワールドコラボフェスタ（愛知）、11月早稲田祭（東京）、本陣文化祭（愛知）、協力隊OBOG勉強会（滋賀）、12月養老町立日吉小学校（岐阜）、国際協力カレッジ（愛知）、国際理解セミナー（三重）

#### 3）相談員会議 計2回

6月（東京）と12月（兵庫）相談員会議への参加

### （4）特記事項

北陸地域の団体や個人とのネットワークが広がりました。

### （5）2011年への展望

東海・北陸地域での相談員業務を確立していきます。

## 6、外務省NGOインターン（外務省委託事業）

### （1）事業概要

将来NGOにおいて有給職員を目指す若者にインターンの機会を提供し、NGO全体の実施能力を向上するために、外務省のNGOインターン制度（正式名称：外務省NGOインターンプログラム）があります。アイキャンは、受託団体として、インターン1名を受け入れ、開発事業のプロジェクトマネージャーになるべく養成を行いました。

### （2）実施事務所

マニラ事務所、日本事務局

### （3）実績

#### 1）日本事務局での研修 計17日間

一日数：6月13日間、7月4日間

－内容：主に年間計画作成、フェアトレードや広報、会員やボランティア、他NGOとの交流等

#### 2）マニラ事務所での研修 計86日間

一日数：7月12日間、8月14日間、9月16日間、10月15日間、11月15日間、12月14日間

－内容：主にゴミ処分場や路上の子どもに関わる開発事業の補佐、フェアトレード生産者団体との調整業務、スタディツアーの補佐等

### （4）特記事項

NGO活動の幅広い業務に従事させ、組織全体を見渡せる人材の育成を目指しました。

### （5）2011年への展望

次年度は、ゴミ処分場地域の開発事業に専従させ、プロジェクトマネージャーになるべくOJTを行います。



「I CAN(私のできること)」を増やす事業

#### (1) 概要と目的

世界中にある様々な課題を解決するためには市民1人1人の行動が必要です。そこで、アイキャンは今年も取り組みやすい身近な方法を提案するとともに、「ともに」頑張る仲間を増やし、社会の中で「できること」を増やしてきました。

#### (2) 全国での活動

2009年に作成したハガキ収集箱を全国に約600箱設置し、企業・団体・個人との繋がりを増やし、募集チラシを配布することにより活動を広げていきました。その結果約450名の方々とともに、32,583枚のハガキと未使用切手・テレホンカード・商品券・外国紙幣等を収集でき、子どもの教育寄付を約135万円分ねん出できました。また、11月にブックオフオンライン株式会社と古本収集の提携をはじめ、約300冊を収集することができました。

#### (3) 名古屋での活動

##### 1) 街頭募金

月1回毎回10人前後、1年で101人のボランティアが、街頭募金を行いました。1,316人の方に活動紹介のチラシを配布し、1,121名の方から募金を頂き、1年間で約265,000円を集めました。

##### 2) 交流会・勉強会の開催

月1回計12回、ボランティアグループの交流会・勉強会を開催しました。国際理解教育、書き損じハガキ収集、フェアトレード事業、多文化事業に分かれ、コアメンバーがスタッフと目標に向かって活動を進めました。

##### 3) 「初めまして！I CAN」の開催

アイキャンとともに活動するメンバーを増やすため、ボランティアグループ企画・主催のもと6月13日に事業説明会とボランティア体験を開催し、9名が参加しました。

##### 4) チャリティーイベントの開催

ボランティアメンバーの主催でフットサルイベントを行いました。フィリピンでの活動費として約7万円が集まりました。

#### (4) 東京での活動

10月2日・3日に東京で開催された「グローバルフェスタ2010」に出店しました。東海、関東、北海道在住のボランティア14名が中心となり商品の販売を担いました。

#### (5) 大阪での活動

大阪でボランティアグループができ、書き損じハガキ収集やフェアトレード販売ブースのコーディネート、フェアトレードショップへの営業等を行いました。

#### (6) 岐阜での活動

11月6日～11月28日に、写真展を開催し、活動紹介やフェアトレード商品の販売を行いました。当日は岐阜県在住のボランティアメンバーが説明や販売を担いました。

#### (7) マニラでの活動

マニラ事務所では、インターン2名、ボランティア3名がフェアトレードの日本と現地をつなぐ調整業務や、商品の発送業務、また医療活動の補助業務を行いました。

#### (8) 2011年への展望

引き続き、各地での活動を活性化させるとともに、新しい場所へも活動を広げていきます。また、書き損じハガキ収集活動、古本収集活動の他にも身近に関われる、新しい「できること」を提供していきます。